

## FP Topics

2018年8月号

### = 投資信託とは =

#### ★投資信託の特徴

##### ①少額から投資できる

多くの投資家のお金をまとめて運用する仕組みなので、まとまった資金を準備する必要はありません。

##### ②分散投資が可能

国内や海外の様々な資産や多くの企業に投資することから、リスクを効率的に分散できます。

##### ③専門家による運用

どのように投資して良いのかわからなくても、運用の専門家の運用判断で投資することが可能。

#### ★投資信託のコスト

##### ①購入時手数料

販売会社に支払う手数料(0%~3%) 金融機関によって異なります。手数料がかからない「ノーロード」もあります。

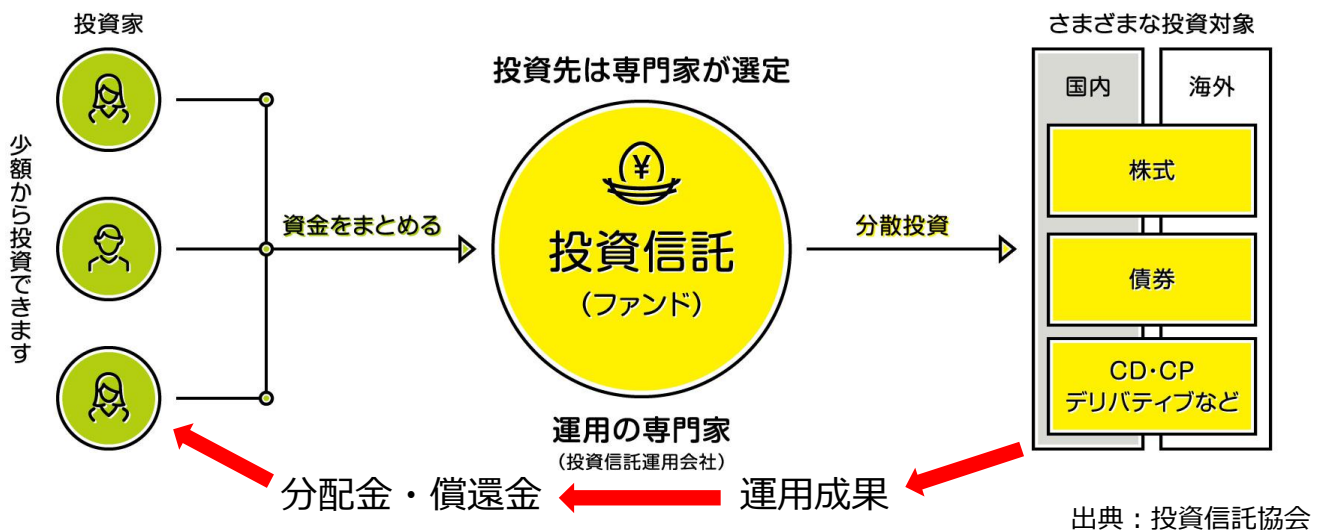
##### ②信託報酬(保有期間中)

全ての投資信託に日々かかる費用(年率0.2%~3%程度) 商品により異なり信託財産から日々差引かれ、基準価額に反映されます。

##### ③信託財産留保額(売却時)

公平性を確保するため、信託財産に留保される費用(年率0%~1%程度)。購入時・売却時などに控除されます。

### = 投資信託の仕組み =



#### ★投資信託の基準価格 (価格)

投資信託の価格を「基準価格」といいます。一般的に1万口あたりの価格が毎日公表されています。株式や債券等で運用されているため、投資信託の価格も日々変動します。

購入時より基準価格が値上がりしたときに売却すると利益がでますが、購入時より基準価格が下がって元本を下回る場合は損失が出ることになります。

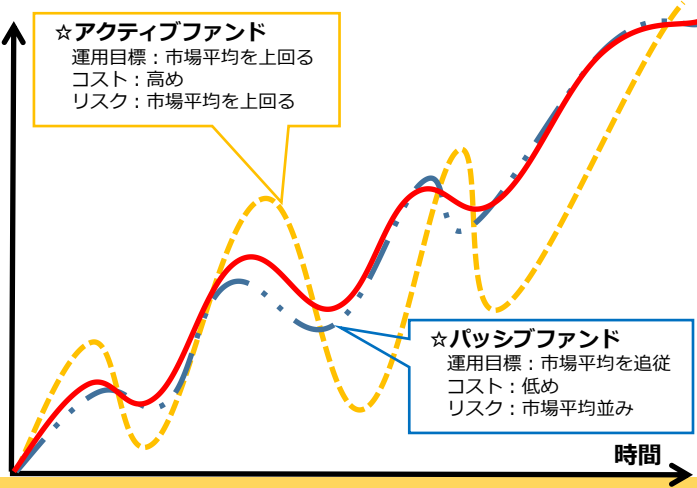
#### ★投資信託を運用する際の基準 (ベンチマーク)

ベンチマークとは、投資信託を運用する際の基準のことで、一般的には投資対象全体を表す指数が設定されています。代表的な国内株式の指数は、TOPIX(東証株価指数)や日経平均株価です。ベンチマークは投資信託によって異なり、その商品説明資料や運用実績のわかる報告書などで確認することができます。また、ベンチマークは運用成果を測るための基準にもなります。

# パッシブファンドとアクティブファンド

- ベンチマーク (運用の基準となる指標)
- - - パッシブファンド (インデックス)
- - - アクティブファンド

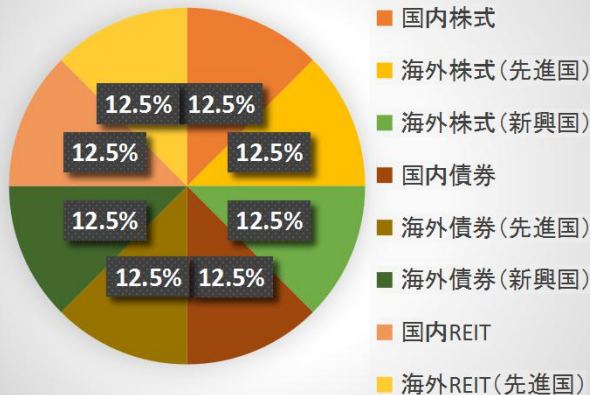
基準価額



= リスクコントロール =

貯蓄から投資へとシフトする際に最も気になるのはリスクをどの程度許容するかということだと思います。単体の株式投資等はいわゆるゼロサムゲームです、儲かった人と損をした人の総和は0になります。大変ハイリスクなゲームと言えます。6月号でも取り上げている《長期・積立・分散》投資の手法を上手に活用してリスクコントロールすることが大切だと考えます。下のグラフは国内や海外の資産に分散して投資する際の一例です。資産クラス別にどのような割合で投資するかでトータルパフォーマンスに大きな影響があるようです。国内/海外・株式/債券/REIT、海外では先進国/新興国と自身でどれくらいのリスクを許容できるのか、あくまで自己責任となりますが、《長期・積立・分散》投資のスタイルでお勧めします。

## 《8資産例》



# 投資信託の運用方法

投資信託は運用方法によりパッシブファンド（インデックス）とアクティブファンドに分類されます。

| パッシブファンド  | アクティブファンド   |
|---|---|
| <p>市場の平均的な収益を獲得することを目標としている。多くの銘柄に分散投資されており、基準となるベンチマークに連動する運用成果を目指す運用方法です。</p> <p>左のグラフにあるように、赤色の曲線（ベンチマーク）に追従するような運用方法です。代表的なベンチマークとしては、先にも触れましたが、日経平均株価（日経225）やTOPIX（東証株価指数）を基準とする指数（インデックス）となります。</p> | <p>アクティブファンドは、ベンチマークを上回る運用成果を目指す運用スタイルです。投資信託の運用者（ファンドマネージャー）が様々な調査・分析/市場予測などを行い市場平均を上回る収益の獲得を目指します。</p> <p>パッシブ運用とは異なりファンドマネージャーが独自に銘柄を選定することになります。左のグラフにあるように、ベンチマークを上回る運用成果を目標としていることから、パッシブファンドに比較して値動きの幅が大きくなる傾向にあります。</p> |

## ～今月の山便り～

この美しい滝は、4月及び5月号でも取り上げた、大峰山脈釈迦ヶ岳を源流とする、美溪“赤井谷”の中流域に架かる非常に美しい滝です。

入溪2日目の早朝に出会った美滝です。何か厳かなものを感じ、この滝を直登するのは憚れる気がして左から巻いた記憶があります。滝の周辺全てがしっとりと潤っており、流れの周辺は光輝いて見えました。

前日、入溪の際時間と体力を消耗し、くたくたになりながら幕営。酒の肴にと竿を出すのが獲物にありつけぬまま、焚き火を囲んで宴会に突入。ハードワークの後は酒量が進むらしく、二人で角瓶を一本空けてしまいました。少々二日酔いで出会った美滝で目が覚めたようです。この後、頂上のお釈迦様に辿りつくまで、気が遠くなりました・・・

